

【 第42回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時：令和7年2月12日（水） 14：00～14：40（予定）

場 所：本部棟1階 大会議室

本学出席者：熊本大学長

小川 久雄

理事（研究・グローバル戦略担当）

大谷 順

理事（広報・ブランディング・行政連携担当）

宮尾 千加子

内 容：

1. 多文化的視点から探る生命倫理の課題について（資料1）
大学院人文社会科学研究部 教授 トビアス・バウアー
2. 熊本県官民協働海外留学支援事業の報告（資料2）
大学院自然科学教育部博士後期課程2年 木田 朋輝
3. その他



多文化的視点から探る 生命倫理の課題について

第42回熊本大学定例学長記者懇談会 2025年2月12日(水)

熊本大学大学院人文社会科学部 教授

トビアス・パウアー

bauer@kumamoto-u.ac.jp

1

- 氏名 Tobias Bauer (トビアス・パウアー)
- 熊本大学大学院人文社会科学部 教授

• 略歴

- 1976年～ 南ドイツのミュンヘンで生まれ育つ
- 1996年～ ミュンヘン大学で哲学、比較宗教学、日本学を学ぶ
- 2002年～ 脳死・臓器移植に対する仏教・キリスト教の思想比較という研究テーマで日本へ留学
- 2004年～ 熊本大学文学部着任(独語独文学分野担当)



ミュンヘン大学本館の前
出典: <https://web.archive.org/web/20161031052008/http://www.panoramio.com/photo/121827638>



2018年8月国際シンポジウムにて
(於: 熊本大学くすの木会館)

熊本大学着任当時の想い

- 「Si hortum in bibliotheca habes, deerit nihil.」 (キケロ『友人・家人宛書簡集』9.4)
— 緑と赤レンガのキャンパス
- 伝統と先輩の存在が励みになる。例: 第五高等学校外国人(ドイツ人)教師グンデルト(Wilhelm Gundert, 1915-1920)
- 「外国語を知らない者は自分自身の言語について何も知らない。」(ゲーテ) — 海外に住み・異文化の勉強を通して自国の文化の再認識

朝日を浴びる五校記念館



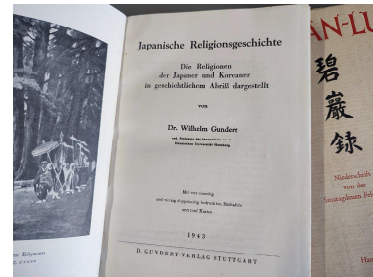
Wilhelm Gundert, 1880-1971
出典: 上村直己著『九州の日独文化交流人物誌』, p. 162



パワー研究室から見た五校記念館

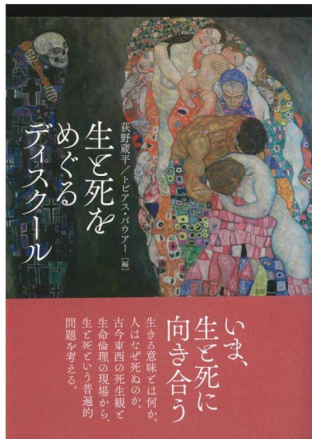


グンデルト著『日本宗教史』1935年、グンデルト訳『碧巖録』1964年



これまでの研究テーマ

- 生命倫理全般、生命倫理諸問題の文化的背景、生命倫理と宗教
- 死生観、死生学、自殺幫助
- 出自を知る権利、赤ちゃんポスト、内密出産



荻野蔵平・Tobias Bauer編『生と死をめぐるディスカール』九州大学出版会2020年

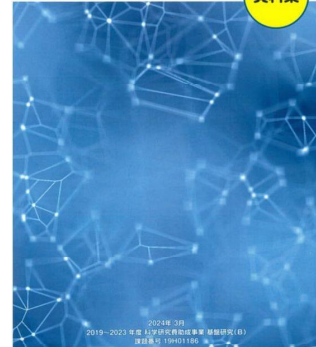


2018年8月国際シンポジウム「ドイツの内密出産に学ぶ—新しい母子救済支援の可能性を探る」(於: 熊本大学くすの木会館)

「出自を知る権利」

匿名による子どもの養育と生殖補助医療における出自を知る権利に関する日独比較研究

資料集



科研究報告書(2024年3月刊行)

現在の研究テーマ ドイツにおける出自を知る権利と関連分野の動向

1988/89年 連邦憲法裁判所決定/判決：基本法第1条第1項（人間の尊厳）と第2条第1項（人格の自由）を根拠に、出自を知る権利を基本権として位置付ける

「人格権は、自分の血縁を知る権利をも含む」（連邦憲法裁判所判決1989年；BVerfG, Urt. v. 31.01.1989 - 1 BvL 17/87）

2013年 内密出産の法制化（内密出産法；2014年5月1日施行）

2021年4月1日 「養子縁組の際の家族支援を改善する法律」（養子縁組支援法）の施行

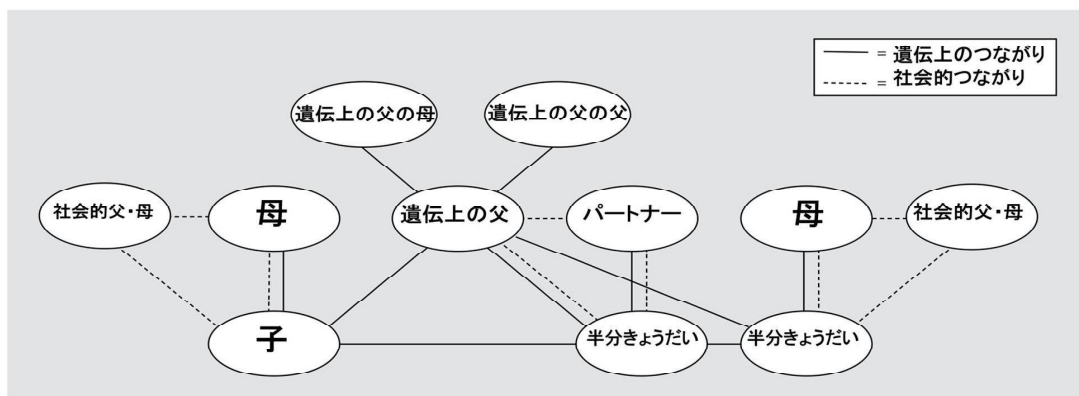
子どもが自分の出自を知ることができるよう、養子縁組幹旋機関が養父母に子どもの出自を知る権利について、および、子どもの発達上で出自を知ることの重要性について情報を提供し、子どもの年齢にふさわしい形で出自について最初から告知するように働きかけることが強調され、オープンな養子縁組活動を推進する

2013年 非配偶者間人工授精（AID）で生まれた人に出自を知る権利を認める判決（ハム高等裁判所）

2017年 「精子提供者登録簿を設置し、及び非配偶者間での精子使用後に提供者に関する情報提供を行うことについて規定する法律」（精子提供者登録法；2018年7月1日施行）

現在（2023年度～）取り組んでいる共同研究プロジェクト 「諸外国における精子提供者の非匿名化と家族にもたらす影響に関する比較研究」 基盤研究(B) 23K25258

- 1980年代から、非配偶者間人工授精（AID）による出生者の「出自を知る権利」の観点から、従来の精子ドナーの匿名性を規制によって廃止する国が増えてきた。
- このような「非匿名化」が当該家族の家族関係や真実告知の方法に与える影響や、ドナーの法的位置づけを踏まえて、AIDによって出生した子を含む家族が非匿名になったドナーを家族内外にどのように位置付けるか、また、家族内の「知る/知らないこと」のマネジメントの変化など、AID家族が精子ドナーの非匿名化によって直面する倫理的・心理社会的課題を検討する。



「3人[母・社会的父(母)・遺伝上の父]で家族を作ること」による拡大家族のモデル 出典：Meier-Credner, Anne (2020): Familiengründung zu dritt – psychologische und ethische Aspekte. Der Verein Spenderkinder. In: Katharina Beier, Claudia Brügge, Petra Thorn und Claudia Wiesemann (Hg.): *Assistierte Reproduktion mit Hilfe Dritter*. Berlin, Heidelberg: Springer Berlin Heidelberg, S. 335.

進捗状況・展望

- ドイツ、ニュージーランド、オーストラリアの(元)精子ドナーへのインタビュー調査の実施・分析中
- 国内外での共同研究協力体制をファシリテート
- 熊大主催の国際シンポジウムの企画
- 研究成果を日本の当該議論(と関連議論)へ還元

ドイツ現地調査(ベルリン)にて(2024年3月)



国際共著論文(2024年8月公開)

SN Social Sciences (2024) 4:163
<https://doi.org/10.1007/s43545-024-00967-w>



ORIGINAL PAPER



Intra-familial dynamics of knowledge and ignorance experienced by donor-conceived adults in Germany

Tobias Bauer¹ · Anne Meler-Credner²

Received: 23 March 2024 / Accepted: 20 August 2024 / Published online: 29 August 2024
© The Author(s) 2024

Abstract

This study explores how donor-conceived adults experience pre- and post-disclosure intra-familial dynamics of knowledge and ignorance in relation to their means of conception. Data were collected through an online survey of 59 individuals aged 21–46 years, who were recruited through the German support and advocacy group *Verein Spenderkinder* (the Association of Donor-conceived Children). Participants were born into families with heterosexual parents and learned about their

Kumamoto University

7

ありがとうございました



8

9/13~12/17 留学報告 ～熊本県官民協働海外留学支援～

熊本大学大学院
自然科学教育部博士後期課程 2年
木田朋輝

～「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成～ 熊本県と世界の架け橋となる人材に向けて

氏名	木田 朋輝
留学先	(国名：アメリカ) (実践活動先：Scripps Research)
留学期間	3ヶ月 (令和 6年 9月 16日 ～ 令和 6年 12月 16日) (予定)
留学テーマ	新たな研究領域を学び研究者としての基盤を作り熊本県への貢献を目指す

(1) 留学の目的

現在の熊本県活性化を目指す

- ・ インターンシップ先に実験手技の伝承を行い、留学先との架け橋になり共同研究に繋げる。

未来の熊本県活性化を目指す

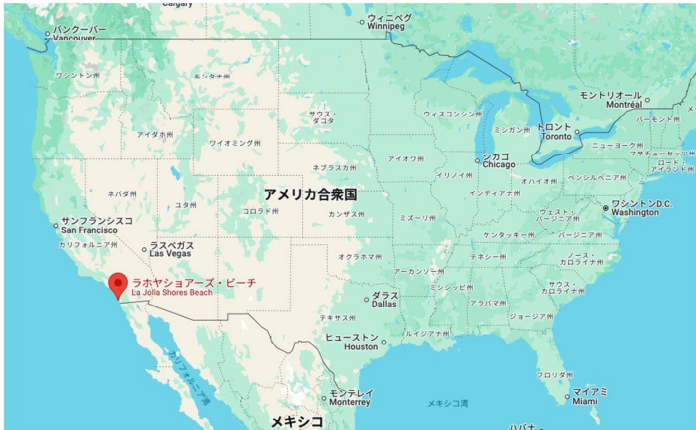
- ・ 基礎研究から起業導出までの流れや考え方を学び、熊本発ベンチャーを作る。



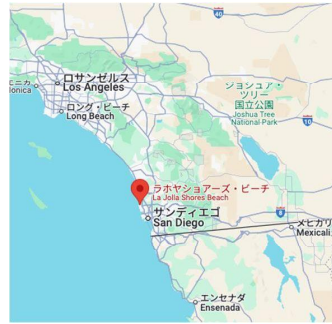
インターンシップ予定先
(株式会社StapleBio)

～「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成～
 熊本県と世界の架け橋となる人材に向けて

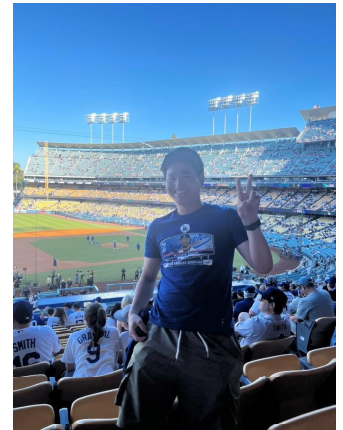
Scripps research
 (カリフォルニア、サンディエゴ)



参照：GoogleMap



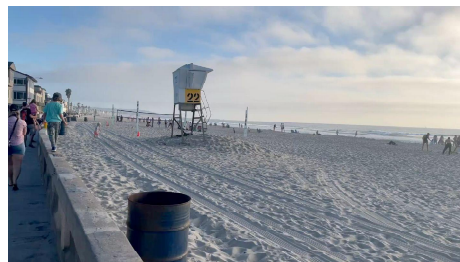
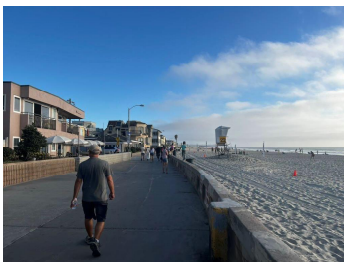
参照：GoogleMap



1ヶ月後

～「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成～
 熊本県と世界の架け橋となる人材に向けて

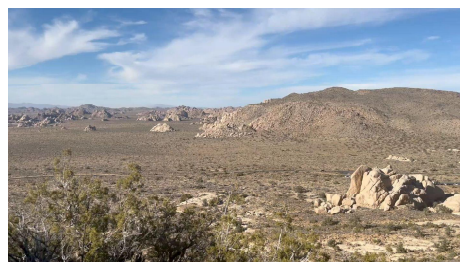
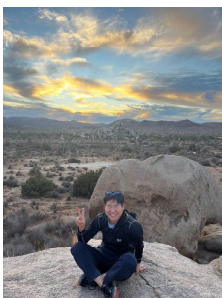
Mission beach



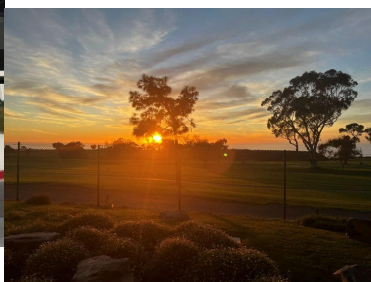
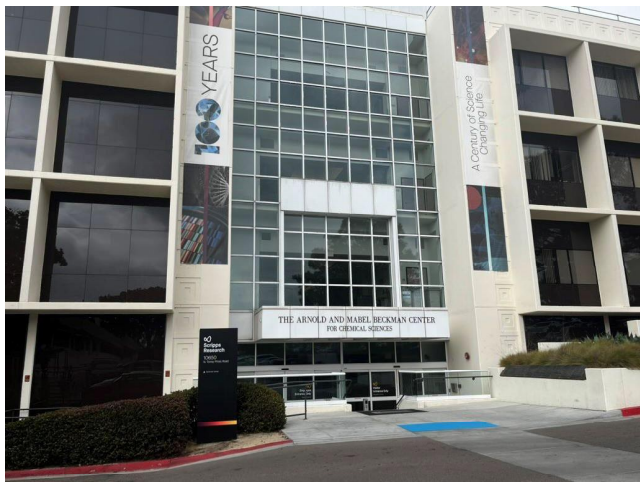
SanDiego zoo



Joshua tree



～「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成～
熊本県と世界の架け橋となる人材に向けて

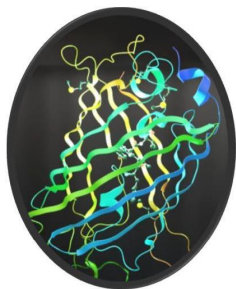


～「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成～
熊本県と世界の架け橋となる人材に向けて



留学先
Ian MacRae教授

～「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成～
 熊本県と世界の架け橋となる人材に向けて

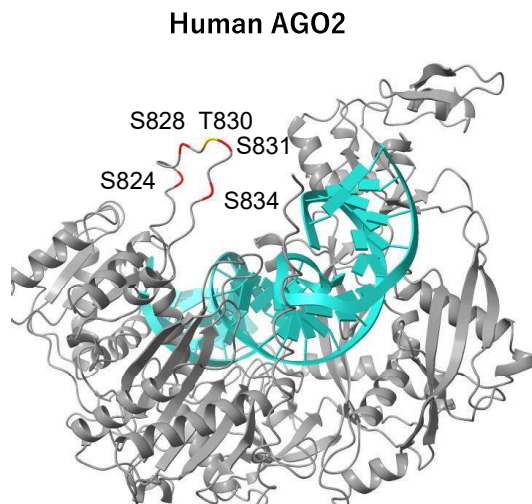


タンパク質の構造



ノーベル生理学・医学賞にマイクロRNA分子発見の研究者ら2人

参照：NHKニュース



miRNAと深く関与しているタンパク質の構造を調べ、miRNA機能をさらに解明する。

～「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成～
 熊本県と世界の架け橋となる人材に向けて

1. 新たな実験技術や研究方法論を活用し、独自の研究計画を立案・論文化することを計画している。

- **熊本大学の業績**にも繋がり、熊本県の活性化につながる。



2. 研究者と積極的にディスカッションを行い、多くの人脈形成ができる。

- インターンシップ先と**留学先との架け橋**となり、新たな共同研究の起点となる。



3. 実践的プログラムに参加し企業導出を学ぶことができる。

- 申請者が将来、**基礎技術を基に新たな企業導出**を行い熊本県の活性化に貢献する。



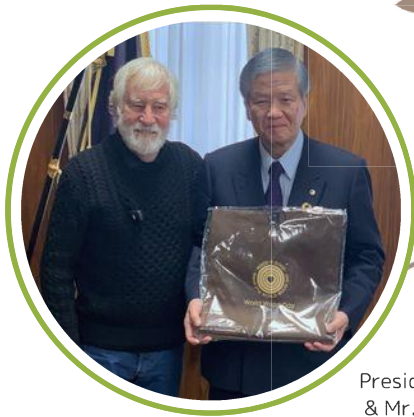
令和7年2月12日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 報告 1



Eco-living with Wood @ KUMAMOTO UNIVERSITY

Temple Of Trees



President Ogawa
& Mr. David Best



WORLD WOOD DAY 2025 2025.3.21(fri)

ワールド・ウッド・デーは世界中から多分野の専門家や職人やアーティストが集まり、木材と持続可能な環境を促進する多文化的イベントであり、初の日本開催となる今年はお家族連れでも楽しめる木の文化の祭典となります。

Temple of Trees プロジェクトとは？

Life (生活)
Eco-living (エコ暮らし)
Heritage (遺産)
For kids (こども向け)
Gallery (ギャラリー)
Useful (役に立つ) , Joyful (楽しむ) , Thankful (感謝)

の6つのユニットに区分され、合体可能な木造オブジェを設計し、米国著名な木彫芸術家 David Best 氏率いる国際チームと地元参加者のコラボで作り上げ、展示するイベントです

- Wood is Good 体験教室
- I Love Trees 絵画ワークショップ
- World Wood Day 2025 記念式典
- Temple of Treesプロジェクト発表
- くまモン登場
- 熊本大学邦楽部演奏
- 記念植樹
- レセプションルーム パーティ

※内容には変更がある場合がございます

主催：国際木文化学会 (IWCSI)、一般社団法人日本木文化学会 (JWCSI)、ワールド・ウッド・デー基金会 (WWDF)、ワールド・ウッド・デー2025日本実行委員会
共催：公益財団法人竹中大工道具館、国立大学法人熊本大学、独立行政法人天王寺動物園、NPO法人MtFuji Wood Culture Society、
一般社団法人日本木材学会 (JWRS)、井波彫刻協同組合、中島ウッドターニングスタジオ、美術文化協会、他
後援：林野庁、国立大学法人熊本大学キャンパスミュージアム推進機構、
International Association of Wood Anatomists (IAWA)、 International Academy of Wood Science (IAWS)、
International Unions of Forest Research Organizations (IUFRO)、 International Society of Wood Science and Technology (SWST)、他
協賛：木夢株式会社、ワールド・ウッド・デー基金会 (WWDF)、他
協力：株式会社サンゲツ、株式会社高橋工房、学校法人洗足学園洗足学園音楽大学、学校法人ものづくり大学、認定NPO法人芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館、
特定非営利活動法人全国邦楽合奏協会、一般社団法人日本和楽器普及協会、東京伝統木版画工芸協同組合、
American Association of Woodturners (AAW)、他

※調整中含む